

月報 2020年 9月30日 No.356

石城山岳会

9月号

# 四方通信

石城山岳会事務局編集

雨降山(テンキチョウ) 770.5m、大黒山 783.6m

クマと出会った那須

燧ヶ岳 (2,356m)

谷川岳(1963m)肩ノ小屋で撤退

入笠山(1955m)

9月登山教室「赤面山」1,701m

赤面山 1,701m

男体山

剣岳 2997.1m、奥大日岳 2605.9m

山行報告 長井葉山 1,237m

山行報告 大朝日岳 1870.3m～祝瓶山 1,417m

山行報告 焼石岳 1548.1m

月例山行 栗駒山(1,627m)

# 雨降山(テンキチョウ) 770.5m、大黒山 783.6m

令和2年6月14日(日)

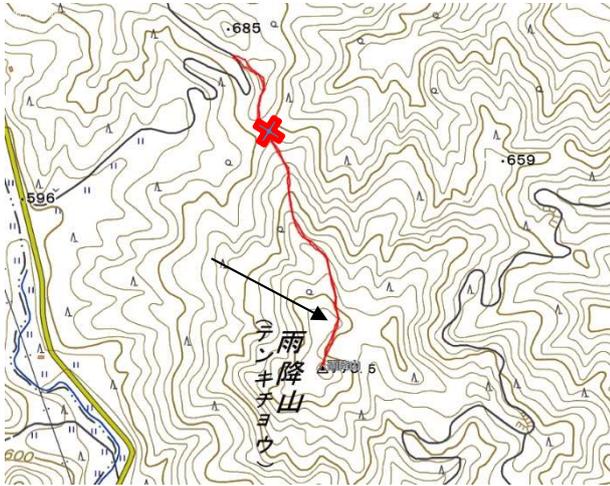
石城山岳会：

登山教室：小松、佐藤(勝)、西、山中、青天目、安部、佐藤(春)

三和町上三坂の雨降山と大黒山に、登山教室受講生と山岳会の皆さんで、登ってきました。

最初は雨降山です。雨降山は、「いわき上三坂小野線」から三和町上市萱に通じる林道途中の登山道から登ります。林道は令和元年東日本台風の影響で、崩れている箇所があり、通行には注意が必要です。

さて、目的の雨降山は、「テンキチョウ」と呼ぶとのことで、国土地理院地形図でも括弧書きで読み方が書かれています。昔は、この山に登り、天気の良い兆を読んだのとのことです。



今日の天気は、午前11時を過ぎると崩れる予報でしたが、登山開始の8時47分時点では晴れていました。

林道からの入口は、地図に書かれている地点ですが、目印がないため、事前に地図などで場所の確認をしておくことが必要です。なお、登山口は、林道の入口より、少し入った地点にあり、「←雨降山」の道標があるので見つけやすくなります。



登山口から「X」のコルまでは、緩やかなアップダウンでした。しかし、コルから先は、山頂まで100m程の登りとなります。



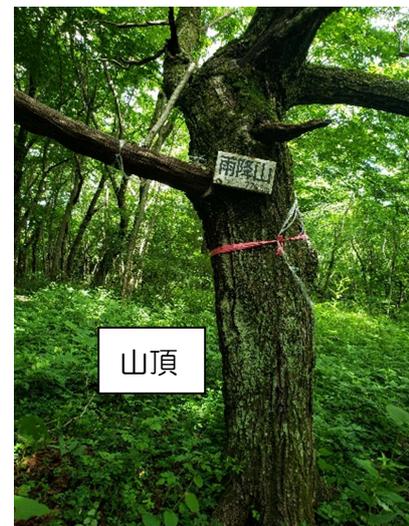
登山道は分かり易く、尾根の東側は杉林、西側は落葉樹林で、雨が近いこともあって緑が濃く、落葉樹の木漏れ日の中を、気持ちよく歩くことができました。

山頂は、下草も多く樹木に囲まれています、「雨降山」と書かれた銘板があり、その脇には三角点があります。

登山道に関する注意点ですが、雨降山には、風力発電の設置(写ってませんが石仏の右側)が予定されているので、樹木伐採や道路を作るための工事が進められています。

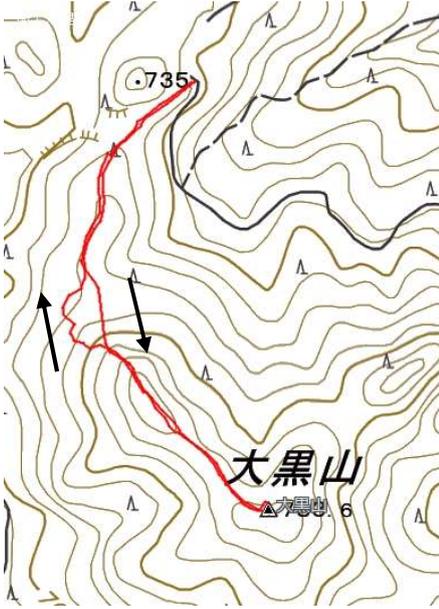
工事道路によって登山道が分断されていたり、道路と登山道が重なり、登山道への復帰箇所が分かり難かったりします。

また、樹木伐採が進められていて、登山道付近の樹木には、伐採予定などを示す赤ペンキが塗られており、後日、雨降山を



登る場合には注意が必要です。

雨降山を下山したら、次は大黒山です。



大黒山登山口までの車道ですが、国土地理院の地形図に書かれている軽車道と違っていています。

現地は、735mのピークを回り込むように道路が走っています。地形図の軽車道は、道路から分岐している林道でした。その分岐点に車を止め、登山口に向けて道路を進みます。

登山口は、道路脇の階段を登りますが、「遊歩道」の道標が倒れ、草に隠れていました。

大黒山は、10時24分から登り始めましたが、空は曇り始めて、雨を感じさせる風も吹き始めています。

登山道は等高線が示す通り、前半はなだらかな登りを気持ちよく歩きますが、後半はピークを目指した登りとなります。

登山道は、道が有るような、無いような状態で、裏山や里山を登る感覚です。

山頂は、風力発電設置のために鉄塔が立っていて、樹木や下草は伐採されていますので、お昼ご飯を食べるのにはピッタリです。



下山時には、秋葉校長先生からロープを使った下降の説明を受け、実技となりました。登山教室受講者はロープを使った下降が未経験なので、スリング、カラビナなどを使ったものではなく、ロープで体を確保しながら下降するものでした。



個人グループやショップ主催の教室では、実地で教えていただけることが少ないため、山岳会主催の登山教室ならではの経験です。今回だけではなく、座学もあり勉強になることが多く、受講して良かったと実感しています。

◎ 雨降山コースタイム：山行1時間18分

(登山口8:47 ⇒ 山頂到着9:28⇒ 山頂出発9:41 ⇒ 登山口10:05)

◎ 大黒山コースタイム：山行1時間32分

(登山口10:24 ⇒ 山頂到着11:00 【昼食】 山頂出発11:48 ⇒ 下降実技 ⇒ 登山口12:44)

(文責 高橋浩史)

# クマと出会った那須

2020年8月29日

小林 憲兒



三斗小屋温泉 煙草屋さんで期間限定で日帰り入浴をしているとの情報を得て、沼原から茶臼岳、朝日岳、隠居倉から三斗小屋温泉の計画で行ってきました。

沼原の駐車場には車が数台。登山口から10分くらい、沼ッ原湿原の登山道を歩いていると、後ろでガサッと音がしました。振り返ると20mくらい？後ろでクマが木からスルスルと降りているではありませんか。

動物園とクマ牧場以外で本物を見るのは初めてです。チラッとしか見ることはできませんでしたが、それほど大きくはありませんでした。近くに親クマがいなかったとヒヤヒヤしながら後ろを振り返ると、クマの姿はあり

ません。後ろから襲ってくるようなものでもないので、しばらく全速力で歩きました。

牛が首までは静かな山歩きでしたが、ロープウェイからの登山道と合流後は朝日岳まで多くの人で賑わっていました。

隠居倉への分岐からはまた人が少なく、小学生のお子さんを連れた家族と抜いたり、抜かれたりして三斗小屋温泉へ到着し、目的の一つ温泉へ（日帰り入浴¥1,000）。

先客は1名のみで、いつまでも入りたい温泉でしたが、まだ下山があるので早々に切りあげました。



三斗小屋温泉を出てから雨がポツポツ降り出しましたが、林の中なのでレインを着るほどでもありませんでした。姥ヶ平下までの登りで、またまた汗だくになりました。

沼ッ原湿原の上の分岐からは駐車場への近道を行きましたが、朝、クマを目撃した近くなので全速力で、笹ヤブから何か唸り声が聞こえてきそうだったのでドキドキしながらなんとか無事駐車場へ無事下山できました。次は三本槍経由で三斗小屋温泉泊りで行ってみたいコースです。

沼原登山口 7:06～姥ヶ平下(三斗小屋温泉)分岐 8:35～姥ヶ平 8:55～牛ヶ首 9:20～10:10 茶臼岳 10:25～峠の茶屋 10:50～11:40 朝日岳 11:50～熊見曾根 12:10～12:30 隠居倉 13:00～13:30 三斗小屋温泉 14:15～16:07 沼原登山口

(文責：小林 憲兒)

# 燧ヶ岳 (2,356m)

2020年8月30日(日) 太・柏村・山縣・菊地・西・二瓶

尾瀬沼、尾瀬ヶ原は散策したが、燧ヶ岳山頂からは見たことがない、という会員のため山行。連日猛暑が続き、山頂付近に小屋もないことから、御池から広沢田代を経由して往復する最短ルートを一歩一歩。

午前6時半前に御池に到着。駐車場は、車が3分の1くらい。丸沼行のバスを待つ人は数人。まだ売店は開いてなかったが、トイレは使えた。準備を整え、涼しい曇天の下、山行を開始。

夜間に降った雨のせいか、登山道には、ちろちろとした流れや水たまりが所々に。木道や階段も濡れていた。順調に登って、広沢田代を過ぎ、熊沢田代のベンチで休憩。湿原は、花の群落は終わり、紅葉には少し早かった。見上げると、これから向かう山頂はまったくの霧の中だった。

俎ヶ岳が近くなり、ガレ場を直登すると、高度のせいか呼吸がづらい。灌木を抜け出ると、ゴツゴツした岩の俎ヶ岳。霧の流れの合間に、眼下に尾瀬沼、目の前に柴安ヶ岳がそびえる。その脇には一瞬だが尾瀬ヶ原が見えた。俎ヶ岳を下り柴安ヶ岳に向かう。

柴安ヶ岳では、尾瀬ヶ原が霧の下。暫く待ったがまったく見えない。皆で石柱の前で写真撮影。各自、様々なポーズも試してみた。俎ヶ岳に戻って昼食。薄切り仙台牛、厚切りベーコン、果物や野菜、デザート、菓子などで栄養補給。柴安ヶ岳への往復もあったが、山頂付近で2時間以上も過ごした。

下山は、同じルートを戻った。途中の田代で少し休み、順調に駐車場に戻った。下山後は尾瀬の日のサービスデーだった燧の湯で入浴、帰路につく。

文責：太

## コースタイム

6：45 御池駐車場→7：45 広沢田代→8：50 熊沢田代→10：20 俎ヶ岳→11：05 柴安ヶ岳→12：45 俎ヶ岳→13：50 熊沢田代→14：45 広沢田代→15：30 御池駐車場



# 谷川岳(1963m)肩ノ小屋で撤退

2020年9月6日(日) 菅野・太・柏村・西

紅葉シーズンには早かったが、有名な山であり、西会員以外は未登頂だったので登ることにした。

谷川岳ベースプラザに駐車して、天神平駅までロープウェイを利用し、さらにペアリフトで天神峠まで登る。天気は曇りで、風は強くなかったが、ガスがかかり視界は良くない。天神峠のリフト建屋の屋上から見渡せるはずの山々は霧の中だった。

峠の神社にお参りしてさっそく出発、灌木の生える道を下ると、樹林の中で天神平駅からの道と合流した。道は所々が木道になり、熊穴沢避難小屋へと続く。避難小屋を過ぎると、クサリ場なども現れ、天狗の留まり場やザンゲ岩などで露岩が見られる。灌木が切れてザした道、階段を登る頃には雲行きがあやしくなった。登り切って肩ノ小屋に着いた頃には大粒の雨と、まっすぐ立てないほどの強い風が我々を襲った。三角点のあるトマノ耳までは10分程度だが、濃いガスのうえに暴風雨態で、大変な危険な状態。小屋前で雨衣を着こんですぐに撤退を開始。急いで熊穴沢避難小屋まで下る。避難小屋では火を使い、持参した食材を調理。パスタに夏野菜炒めなど暖かい食事が凍えた体に心地よく、飲み物で寛ぐ頃には、大勢の登山者がやってきた。彼らに場所を譲ると、天神平駅まで戻り、ロープウェイで下山した。

文責：太

## タイム

8:15 天神峠→8:50 天神峠分岐→9:15 熊穴沢避難小屋→10:05 天狗の留まり場→10:50 肩ノ小屋→12:20 熊穴沢避難小屋 13:35→14:15 谷川岳ロープウェイ天神平駅



# 入笠山(1955m)

2020年9月12日(土) 太・菊地・西・二瓶・外2

手軽に山に登って、眺望を楽しみ、高山植物・湿原の草花を愛で、美味しいものを食べたい、そのような贅沢な希望のもと、新潟県からも友人・知人がつどい、入笠山に登った。

入笠山の麓にある富士見パノラマリゾートへは、中央道・諏訪南インターから車で10分程度のアクセス。その山麓駅から山頂駅までゴンドラで手軽に登ることができる。山頂駅からスズラン群生地を通して少し下ったところが、入笠湿原。スズランはなかったが、リンドウがまとまって咲いていた。

木道を歩き、湿原の花を楽しんで、少し登ると山彦荘。その前を通過して、公衆トイレを過ぎ、少し登るとマナスル山荘。余裕をもって地元を出発したが、中央道・小仏トンネルの工事渋滞で、ここに着いたのが正午を回っていた。山荘のピーフシチューは数量限定だったが、なんとか3食分を確保して皆でシェアして賞味。名物に旨いものなし、と言われるが、なかなか美味。

昼食後をゆったりと過ごしてから、山頂に向かう。獣害防除柵で囲まれた花畑(野草保護エリア)の脇を通過して登る短いルートをとると、すぐに山頂。麓の町は少し見えたが、八ヶ岳など遠くの景色は雲と霧にかくれて見えなかった。

下山は、花畑を通過してから、来た道を戻り、山彦荘にも立ち寄りながらゴンドラで麓に下りた。

文責：太

## タイム

12:10 ゴンドラ山頂駅→12:25 山彦荘→12:35 マナスル山荘 13:15→13:40 入笠山 13:55→14:25 山彦荘 14:35→14:45 ゴンドラ山頂駅



# 9月登山教室「赤面山」1,701m

2020年9月13日(日)

参加者：秋葉校長他山岳会6名、登山教室8名

報告者 小松順子

9月登山教室は福島県外の『三本槍岳』登山の予定で、水石山トンネル駐車場に集合。3台の車に分乗し、阿武隈高原道路を矢吹で降り、泉崎村から西郷村へ『三本槍岳』を目指して走ったが、「通行止めがあり、リフトの所から入れない」との情報が入り、急遽、『赤面山』登山に変更となる。

『国立那須甲子青少年自然の家』に駐車し、青空の下、朝の清々しい空気を一杯吸い、皆で準備体操をしてから、自然の家を背にし、足取り軽く山へ入って行く。

暫く登ると藪の中に入る、「藪漕ぎだ」と誰かが言うと、秋葉校長が、こんなのは「藪漕ぎ」ではないと言う。私は本当の「藪漕ぎ」とはどんなものなのかを想像する力もなく、今、この藪と戦うのみであった。藪から出てホッとしたのも束の間、昨日の大雨で水量が増しゴーゴーと滝のように流れる川が目の前に現れる。つかさず、秋葉校長が鋸で木を切り丸太橋を作り、根本先生が木に登り丸太橋を安全に渡れるようにロープを張ってくださった。私はドキドキしながらロープをしっかりと両手で握り丸太橋を渡った。「楽しい！」童心が膨らんではいけそうになった。随分と回り道をして『赤面山』頂上を目指す。途中の休憩地点でコンパスの練習もする。

山頂で皆で昼食を摂っていると雲の間から『三本槍岳』『朝日岳』『茶臼岳』が顔をだしてくれたが雲行きが怪しくなってきた。下山し始めるとぽつぽつ雨が降り出し、雷が鳴りだした、ごつごつの岩場を雷の音に怯えながら必死に下る。本降りの雨となり12時50分『赤面山』登山道中間地点の少し前でレインウェアを着用した。下りは岩が濡れて滑る滑る、ストックで探りながら慎重に下る。

車道が見えた、車道を歩きそのままゴールとおもいきや、なんと又、山道へ入り急な登りとなる、心が折れそうであったが、その道はゴールの『国立那須甲子青少年自然の家』への近道であった。青少年自然の家駐車場へ到着した順に車に乗り、乗車メンバーがそろった車から順に『スパ・ホテルあぶくま』へ移動し、温泉に入り、疲れた身体を癒した。

前回の『東吾妻山』に引き続き下山時にはレインウェアを着用、雷、藪漕ぎ、渡渉と3回目の山行で初めての事を沢山経験し、今まで見たことのない美しいキノコや可愛い花にも出会い、山は素晴らしいです。秋葉校長や根本先生をロールモデルとし、後ろをノコノコと付いて歩いて行きますのでこれからも宜しくお願いします。ありがとうございました。

【コースタイム】青少年自然の家駐車場 7:20→中間点 9:50→自然の家とスキー場の分岐点 10:21→

赤面山山頂 12:00→赤面山と自然の家の中間点 13:50→青少年自然の家駐車場 15:30



渡 渉



赤面山山頂



赤面山への案内

# 赤面山 1,701m

令和2年9月13日 午前7時23分～午後3時22分

山岳会：秋葉、根本、馬場、柏村、長谷川、芳賀

登山教室：西、佐藤、青天目、安部、高橋、猪狩、山中、小松

今回の山行は、福島県西白河郡西郷村の旧白河高原スキー場登山口から赤面山を經由して、那須岳の三本槍岳を目指すものでしたが、9月11日の大雨で「福島県道290号那須甲子線」が通行止めとなっており、登山口に近づけないため、福島県西白河郡にある「那須甲子青少年自然の家」からスタートすることとなりました。



また、山行中に天候が悪化してきたことと、出発地点が変更になり山行距離が長くなったことから、目標を三本槍岳から赤面山に変更となりました。

今回、私は、水分補給を怠ったことと、運動不足がたたわり、途中でバテて脚がつってしまい、旧スキー場リフトの山頂駅跡で動けなくなってしまったため、この報告書は、山頂駅跡までの報告となります。

さて、スタート時点は晴れていて、気持ちの良い出だしです。

「那須甲子青少年自然の家」から暫くは、オリエンテーリングのコースを兼ねた登山道ですが、今回の山行は、途中から「猪コース」と呼ばれる藪漕ぎコースです。こちらのコースは、背の高い笹藪が続くこと、傾斜がキツイこと、コースを見失い易いことから、なかなか厳しいものでした。「猪コース」は30分程歩くと、登山道と合流します。

この登山道には、沢の渡渉が2か所ありますが、9月11日の大雨の影響で、2番目の沢となる「堀川」が増水していて、渡渉が難しい状況でした。

写真の様に、流木とスリングで安全を確保しながら、渡ることができましたが、川脇の斜面や登山道脇が崩落していて、今後、登られる方は注意が必要です。



堀川の渡渉

渡渉後、「赤面山登山コース」と「エスケープルート」の分岐となります。「エスケープルート」は、「福島県道290号那須甲子線」へのルートです。分岐後は、赤面山を目指し、旧白河高原スキー場リフトの山頂駅跡を經由して、約700mを登ります。分岐直後は暫く急登ですが、等高線が示す通り緩やかになっていきます。

私は、山頂駅跡の地点で、疲労の蓄積と水分を十分に摂っていなかったため、太ももとふくらはぎがつり出し、皆さんと一緒に赤面山を目指すことができなくなり、山頂駅跡で皆さんが戻られるまで、休むこととなりました。



山頂駅跡からの雲海

当日は、ハイドレーションに2Lの水、山専ボトルに白湯500mlを持参しましたが、山頂駅跡(1,490m)までの5.2kmで、100mlも飲んでいないため、顔色も蒼くなり、完全な脱水状態となってしまいました。私が動けない間、皆さんは待機することとなり、大変な迷惑をお掛けしてしまいました。

皆さんが赤面山を目指して出発後、私が休んでいる間に、雷雨となってきたため、私のサポートに付いていた山岳会の方の判断で、退避場所がない山頂駅跡から、下山を兼ねて安全な場所に移動後に待機し、下山してきた皆さんと、合流することとなりました。

無事合流できた後は、一緒に下山となりましたが、堀川が増水し渡渉することが難しかったため、上記のエスケープルートから「福島県道290号那須甲子線」に抜け、その後登山道に戻り、「那須甲子青少年自然の家」に帰ってきました。

最後となりましたが、私を待っていることで、皆さんの山行が遅くなり、雷雨もあったため、同行者に迷惑をかけることの怖さが身に染みました。申し訳ありませんでした。

山岳会の皆さんは、私のミスで迷惑をお掛けしているのですが、私に付き添い、サポートしてくださいました。また、足場を確保しながらザックを背負うことなど、的確な指導をしていただけました。ありがとうございました。

山岳会の皆さんは、私のミスで迷惑をお掛けしているのですが、私に付き添い、サポートしてくださいました。また、足場を確保しながらザックを背負うことなど、的確な指導をしていただけました。ありがとうございました。

今後は、水分の補給だけではなく、自己管理を徹底し、皆さんに迷惑を掛けないように、気を引き締めて山に登ります。



○ コースタイム：7時間59分【午前7時23分～午後3時22分】

○ 距離：10.43 km（出発標高943m～山頂駅跡1,894m）

（文責 高橋浩史）

# 男体山

2020年9月13日

小林 憲兒



今週は天気が悪そうなので山はパスのつもりでしたが、日曜午前中は天気が良さそうなので、日光白根山の帰りに見て気になっていた男体山へ行ってきました。

向かう途中、良い天気で男体山もクッキリでテンションUPです。

湖畔第一駐車場（ガラガラでした）に車を止めて、二荒山神社 中宮祠へ。入山手続き（登拝料¥1,000）をして、お守りを頂いてスタートしました。

まずは階段、登山道と最初から汗だくです。三合目から4合目は林道（車道）歩きですが、4合目からは気の根っこや岩ゴロゴロの登山道で、景色もときどき木の間から中禅寺湖が見える程度で、もくもくと登ります

鉄の鳥居が見えたので、ようやく八合目かと思いましたが、八合目はもう少し上でした。

少し登と視界は開けてきましたが、ザレザレの道です。足取りも重く嫌気がさしたころ、ようやく山頂に到着しましたが、残念ながらガスも上がってきてだんだん白くなってきました。



昼ごはんを食べて、そろそろ下山しようかという頃、雨がポツポツときました。遠くで雷の音も聞こえます。急いでレインの上だけ着て、ザックカバーを付けて下山を始めると、雨足が強まりアラレのようなものも交じって横殴りの風が吹いてきました。急いで木陰でレインの下も着て下山開始。八合目くらいまで下りてくると雨も上がりました。

転ばないように気をつけながら下山しましたが、山頂直下のザレ場と三合目の下で足がスベって2回尻もち 泥がべっちょりでかっこ悪かったです。

登山口に到着し、無事下山のお礼をしてから、日光湯元温泉へ行きました。途中、戦場ヶ原からは男体山の山頂までクッキリ見えました。

頂上の剣のバックが青空でなかったのが残念です。

急登りはないものの、ひたすら登りで思ったよりハードでした。

二荒山神社中宮祠 7:15～三合目 8:00～四合目 8:25～八合目 10:15～10:15 山頂 10:55～四合目 13:50～二荒山神社 14:40



（文責：小林 憲兒）

# 劔岳 2997.1m、奥大日岳 2605.9m

9月14日～9月16日 菅野靖司、渡辺敏夫

9月14日（月）

昨年、菅野さん、伊藤さんそれに私の3人で劔岳北方稜線を計画していたが、悪天候のため中止せざるを得なかった。そのリベンジで今年も実施しようとした。天候が心配だったが、直前の予報で好天が期待できそうと実施することにした。残念ながら伊藤さんは都合により参加できず、私と菅野さんとで出かけた。朝、4時過ぎにいわきを発ち、北陸道経由で立山駅に10時頃に到着して、ケーブル



カー、バスを乗り継いで室堂に到着した。天候は晴れで絶好の登山日和。このところ暖気と寒気がぶつかり前線ができて天気が目まぐるしく変わり、予想が難しい。悪天候も覚悟したが、良いほうに天気が変わり幸運だった。室堂に着いたとき関係者の方から、劔沢の先で雪渓が崩落して通行止めで、池の平や仙人池の方には行けないらしい。詳細は劔沢の現地で聞いて確認するしかないとのこと。劔沢に到着して小屋の関係者に確認したところ、やはり通行は難しい、復旧はいつになるかわからないとのことであった。

したがって、急遽予定を変更して、北方稜線をあきらめ、明日、劔岳を別山尾根の一般ルートから登ることにした。

コースタイム 室堂 12:00→雷鳥沢 12:39 13:02→劔御前小屋 14:54 15:06→劔沢キャンプ場 15:38

9月15日（火）

今日も好天で気持ちよく登れる。登山者の数はほどほどで、渋滞になることはなさそうだ。明るくなるのを待って出かけた。年を取ると登りがきつい。今回は荷物が20kg近くあり、かなり頻繁に息を整えないと歩けない。劔岳までは荷物が軽いがそれでも登りはきつい。菅野さんは先に行くが、私はゆっくりと登って行った。天気が良いので周りの山々がきれいに見渡せる。3時間30分ほどで劔岳山頂に到着した。明日は、奥大日岳を経由して称名滝に降りることに変更、今日は雷鳥沢キャンプ場で泊まることにして、劔沢キャンプ場に戻り、テントをたたんで雷鳥沢へと向かった。

コースタイム 劔沢 5:20→劔山荘 5:50→前劔 7:29→劔岳 8:53 9:21→前劔 10:25→劔山荘 11:24→劔沢 12:10 12:56→劔御前小屋 13:59 14:11→雷鳥沢 15:23

9月16日(水)

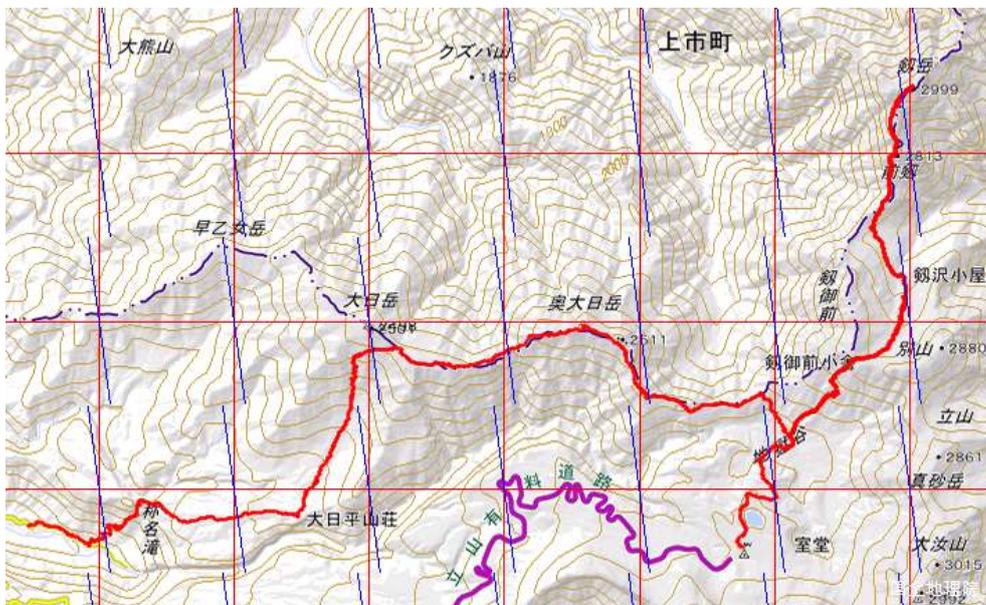


大日岳の稜線から立山の朝焼け

天気予報だと今日まで好天で、明日から天気が崩れるとのこと。昨日までの晴天とは少し違って、大気中の湿度が若干高く雲の量が多い。しかし、雲が高いところにあるので見通しを遮る心配はない。奥大日岳を経由して大日小屋に到着した。小屋はコロナのせいで休業中だ。大日岳は時間がないのでパス。これから称名滝まで長い4時間の下り。雷鳥沢からのこのコースは結構大変なルートだ。下山してから時間があるので称名滝を見学。さすが見ごたえのある滝である。バスで立山駅に戻り途中サービスエリアで車中泊していわきに戻った。

残念ながら今回は北方稜線に行けなかったが、天候がよく楽しい山行でした。

コースタイム 雷鳥沢 4:46→尾根 5:22 5:31→室堂乗越 5:44→朝食 6:29 6:41→奥大日岳  
7:33→大日小屋 9:52 10:07→大日平山荘 11:58 12:17→登山口 14:06



文責 渡辺敏夫

# 山行報告 長井葉山 1,237m

2020年9月19日(土)

秋葉信夫

4連休で天気も良いので大朝日岳に行くことにしたが、それだけではもったいないので近辺の行ったことのない山に登ることにした。

長井葉山は朝日連峰の東端にあって農業の神様、葉山信仰の山である。戦国時代に開かれた30kmに及ぶ朝日連峰の尾根を通り以東岳を下り庄内へと結ばれていた朝日軍道の入り口である。

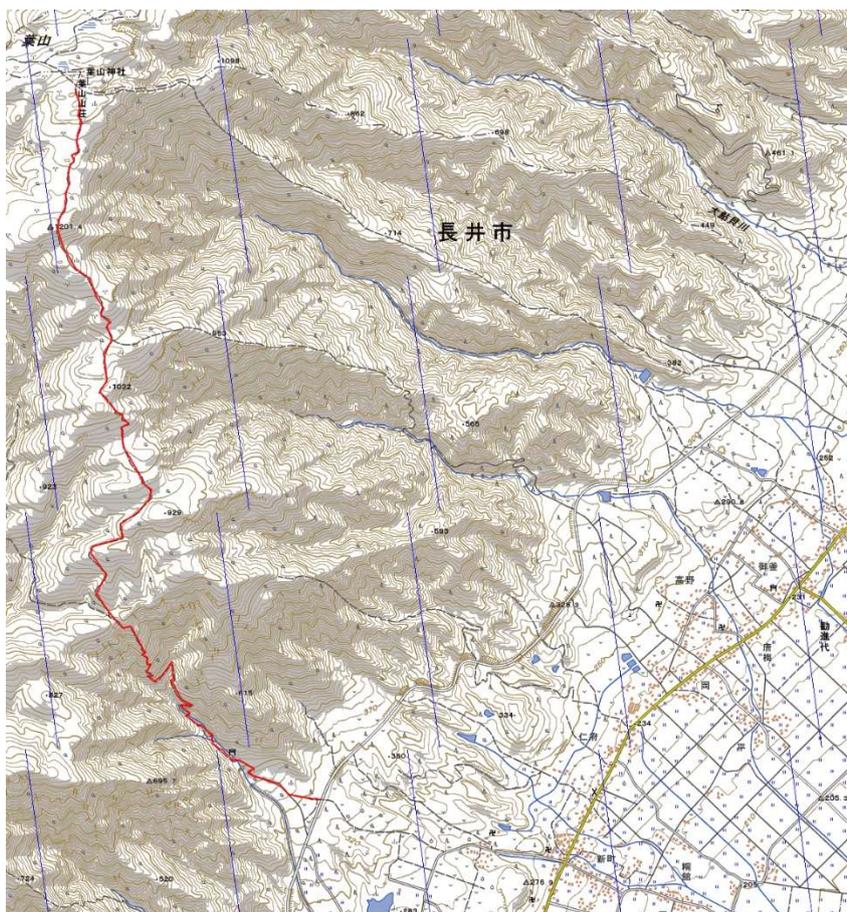
登山口は3つあるが今回は草岡から登った。頂上には山頂湿原、葉山神社、葉山山荘がある。下山してから食事にしようと思い食料は飴玉くらいしか持っていかなかったが、思ったより時間がかり腹が減って仕方がなかった。

道の駅で食べた「冷やしラーメン」が真っ黒いスープに具沢山でとっても美味しかった。

## コースタイム

草岡登山口 8:00 → 頂上 11:30 → 登山口 14:00

(文責：秋葉)



# 山行報告 大朝日岳 1870.3m～祝瓶山 1,417m

2020年9月21日(月)～22日(火)

秋葉信夫

21日 祝瓶山は長井市側の祝瓶山荘からの登山口と、小国町五味沢からの登山口があるが祝瓶山荘までの道が良くないので五味沢から登ることにする。



登山口駐車場には真新しいトイレが設置されていた。吊橋を渡って沢に沿ってブナ林の広い道を行くと祝瓶山への登山道を分ける。角櫓小屋で前で朝食とする。小屋は泊まるにはチョットという感じだった。一本丸太の吊り橋を渡る所が3ヶ所あるが、これがもの凄く怖かった。

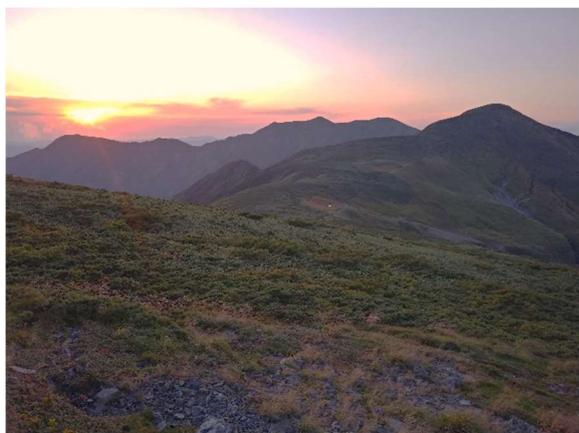
大玉沢出合いを過ぎると急登になる。蛇引清水で水を補給する。ブナ林が終わり分岐を過ぎると尾根歩きになり展望が広がる。



百名山で人気の小屋、連休、

天気が良い。小屋は満杯になる恐れがあるのでテント持参したが、敷地が狭いと一人でのテント使用

は断られた。コロナで密を避けるため宿泊人数は減らしているが、オーバーした分は3人以上のパーティにはテントを貸し出して対応していた。小屋からの夕焼けがきれいだった。



**コースタイム** 駐車場5:30→角櫓小屋6:40→大玉沢出合7:50→蛇引清水10:00→北大玉山11:00→平岩山12:30→大朝日岳14:00→大朝日小屋14:15 行動時間8:45

22日 大朝日岳からのご来光は見れなかったが、平岩山で晴れてきて展望が広がる。前方にはピラミダルな祝瓶山とこれから進む長い稜線。振り返れば大朝日岳からの遥かな稜線。これが何年も夢見ていた光景だ。祝瓶山からの下りが容易でなかった。「白い森交流センターりふれ」で入浴。

**コースタイム** 小屋5:00→大朝日岳5:15→平岩山6:30→北大玉山7:30→分岐→大玉山9:00→桑住平分岐10:30→祝瓶→12:30→登山口15:15 行動時間10:15

((文責：秋葉))



# 山行報告 焼石岳 1548.1m

2020年9月27日(日)～28(月)

渡辺敏夫、秋葉信夫

9月27日 栗駒山登山を終えたが、雨がチラホラ降っている。登山口で車中泊して明日に登るつもりで中沼登山口に向かう。



しかし、登山口に近づくにつれて晴れてきたので予定通り、銀名水小屋まで行くことにする。

ブナ林の登山道を順調に進むが、右足から「パタン、パタン」と音がする。見てみると靴底が剥がれて

いる。テーピングで補強し間もなく銀名水小屋。

小屋には「コロナのため金名水小屋・銀名水小屋とも使用を禁止します。緊急の場合を除く」「銀名水は大腸菌が検出されているので煮沸して使用してください」「夏油温泉から経塚山の間は崩壊し通行不能」とある。貸し切りで気持ちの良い一夜を過ごす。

私は靴の状態が良くないので、戻ることにする。案の定、中沼を過ぎたところで左足も「パタン、パタン」と、戻って正解でした。



コースタイム 中沼登山口 14:00→中沼 14:40→上沼 15:00→つぶ沼分岐 15:30→銀名水小屋 16:00

(文責：秋葉)

# 月例山行 栗駒山(1,627m)

2020年9月27日(月)

秋葉・渡邊敏・小林・赤塚2・太・柏村・山縣・佐藤幸・二瓶

9月の月例山行は、紅葉狩りをテーマに、栗駒山を選定。

いわき市を午前4時に出発、8時前に栗原市の「いわかがみ平」(1,113m)に到着。時おり小雨の降る天気のため、駐車場はまだ空いていた。東栗駒コースと中央コースで周回を予定していたが、不安定な天気と川の増水を考慮し、中央コースの往復にした。

登山口の最寄りに駐車できたので、さっそく登山開始。東栗駒コースとの分岐をやり過ごし、レストハウスの前を通って登っていく。コースはよく整備されており、すぐに石畳の直線的な坂になる。1,400mあたりになると、石畳が終わり、道の傾斜が緩くなる。美しく紅葉した灌木が現われはじめ、薄っすら霞んだ山頂が見える。ガスがなければ、なお絶景であったろう。

山頂が近くなると傾斜が再び増して、横木が置かれた階段状の道となる。登りきると山頂。ガスは多少薄くなった気もしたが、視界はいまひとつ。山頂標柱の前で、集合写真を撮影すると、そのまま駐車場に戻った。

(文責：太)

## タイム

8:00 いわかがみ平駐車場→9:25 山頂→10:30 いわかがみ平駐車場

